

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 22 年 7 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警
報事項に変更はありません。

○ 活動概況

- ・ 噴煙及び熱活動（図 1～2）
昭和 4 年火口の噴煙は今期間観測されませんでした。
- ・ 地震活動（図 1～3、表 1）
山頂部の剣ヶ峰東観測点で微小な地震が 2 回観測されたのみで、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。
- ・ 地殻変動（図 4～5）
GPS 連続観測では、特段の変動は観測されませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 8 月分）は平成 22 年 9 月 8 日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

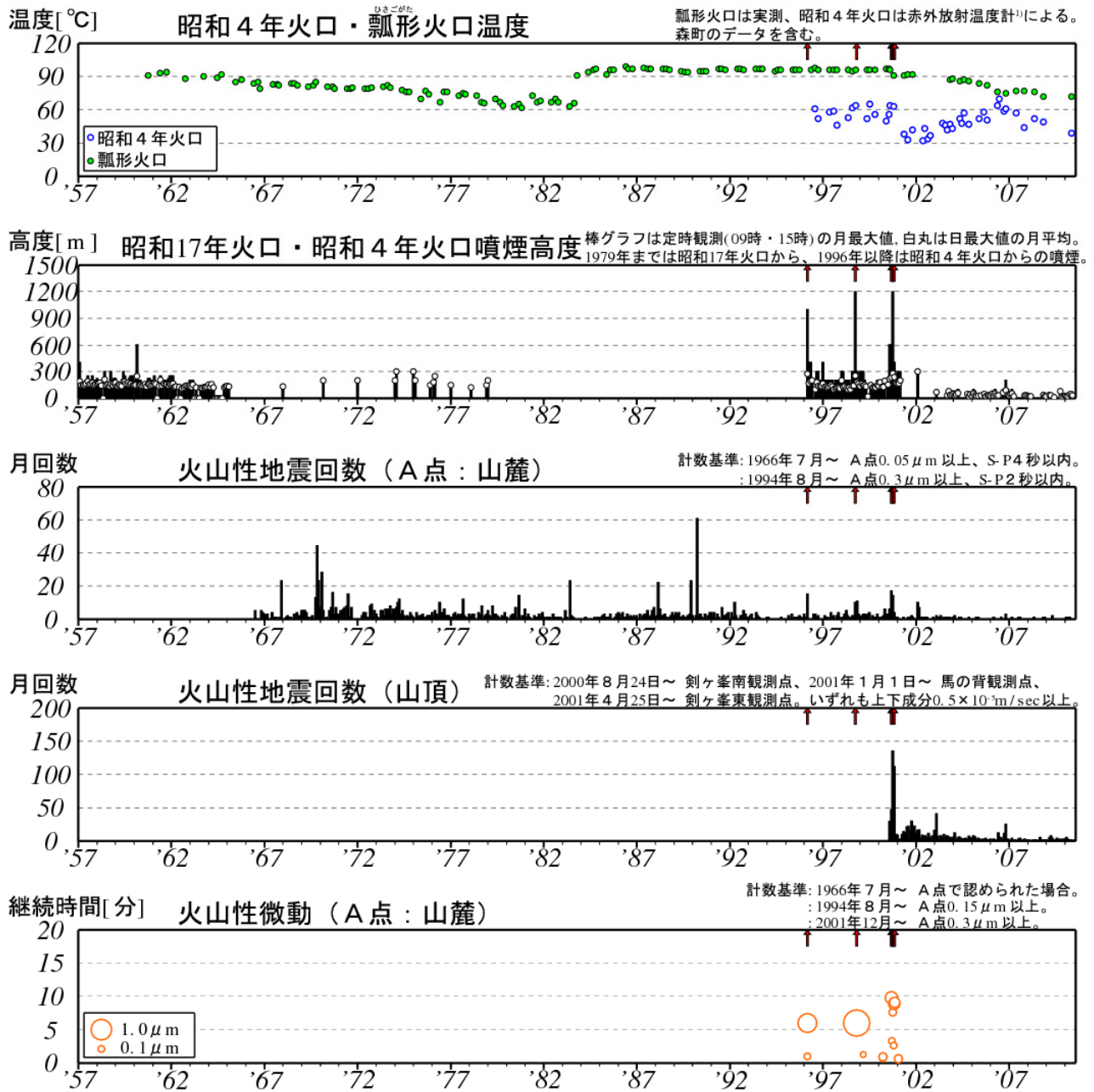


図1※ 北海道駒ヶ岳 長期の火山活動経過図（1957年1月～2010年7月）↑印は噴火

- ・昭和4年火口の噴煙活動は1996年3月の小噴火で再開しました。2000年小噴火活動の終息後次第に低下し2001年4月以降観測されなくなりましたが、2003年以降弱い噴気活動が見られています。
- ・昭和4年火口の火口温度は2002年以降緩やかな上昇傾向を示していましたが、2006年秋以降低下傾向を示しています。
- ・山麓A点で観測される地震は、少ない状態で経過しています。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

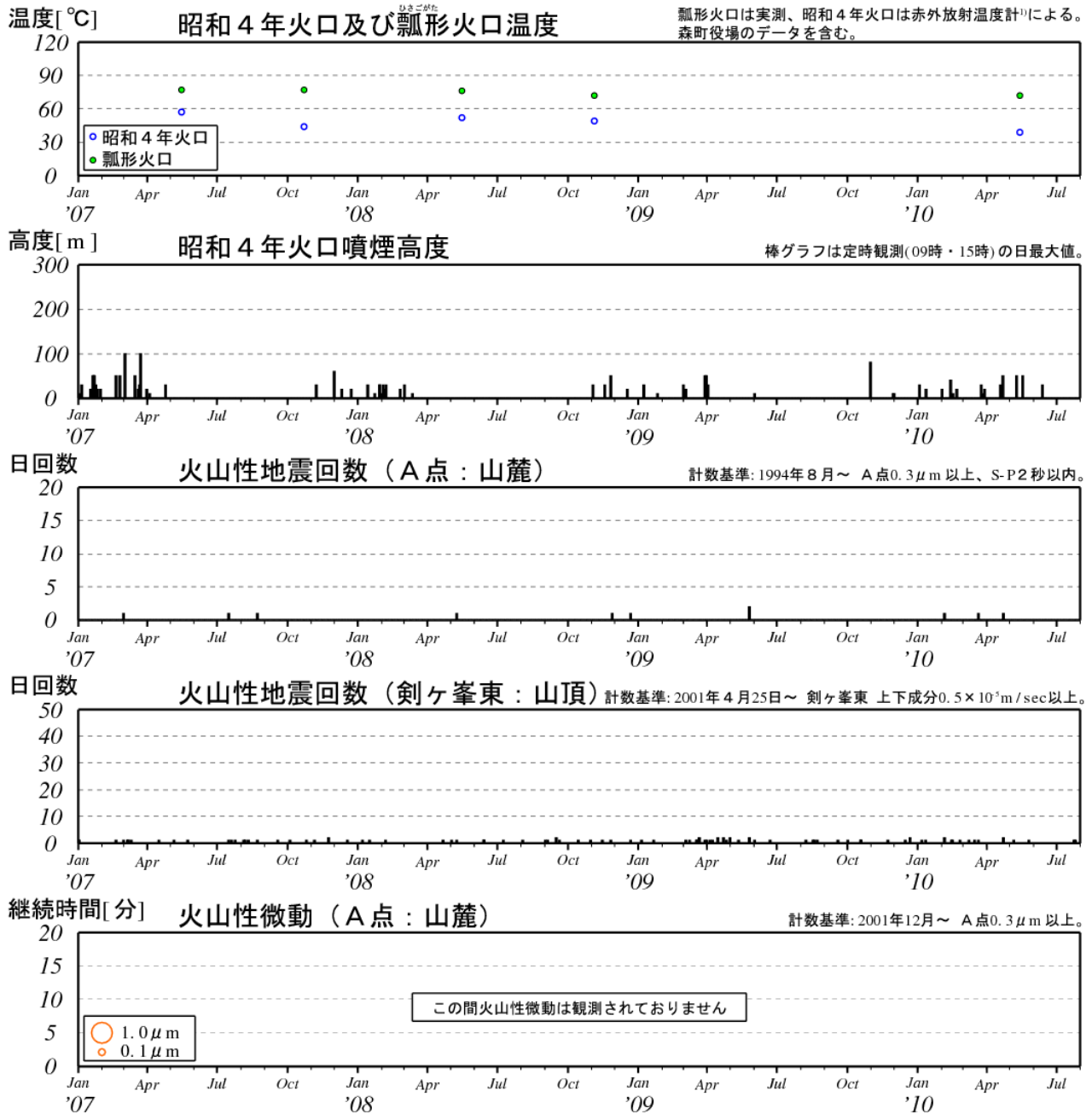


図 2※ 北海道駒ヶ岳 最近の火山活動経過図（2007 年 1 月～2010 年 7 月）

- ・ 噴煙活動は低調に推移しています。
- ・ 火山性地震は少ない状態で推移しています。

表 1 北海道駒ヶ岳 地震・微動の月回数（図 3 の A 点、剣ヶ峯東で計数）

2009～2010 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
A 点地震回数	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
剣ヶ峯東地震回数	4	1	3	1	3	2	3	2	2	2	0	2
A 点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

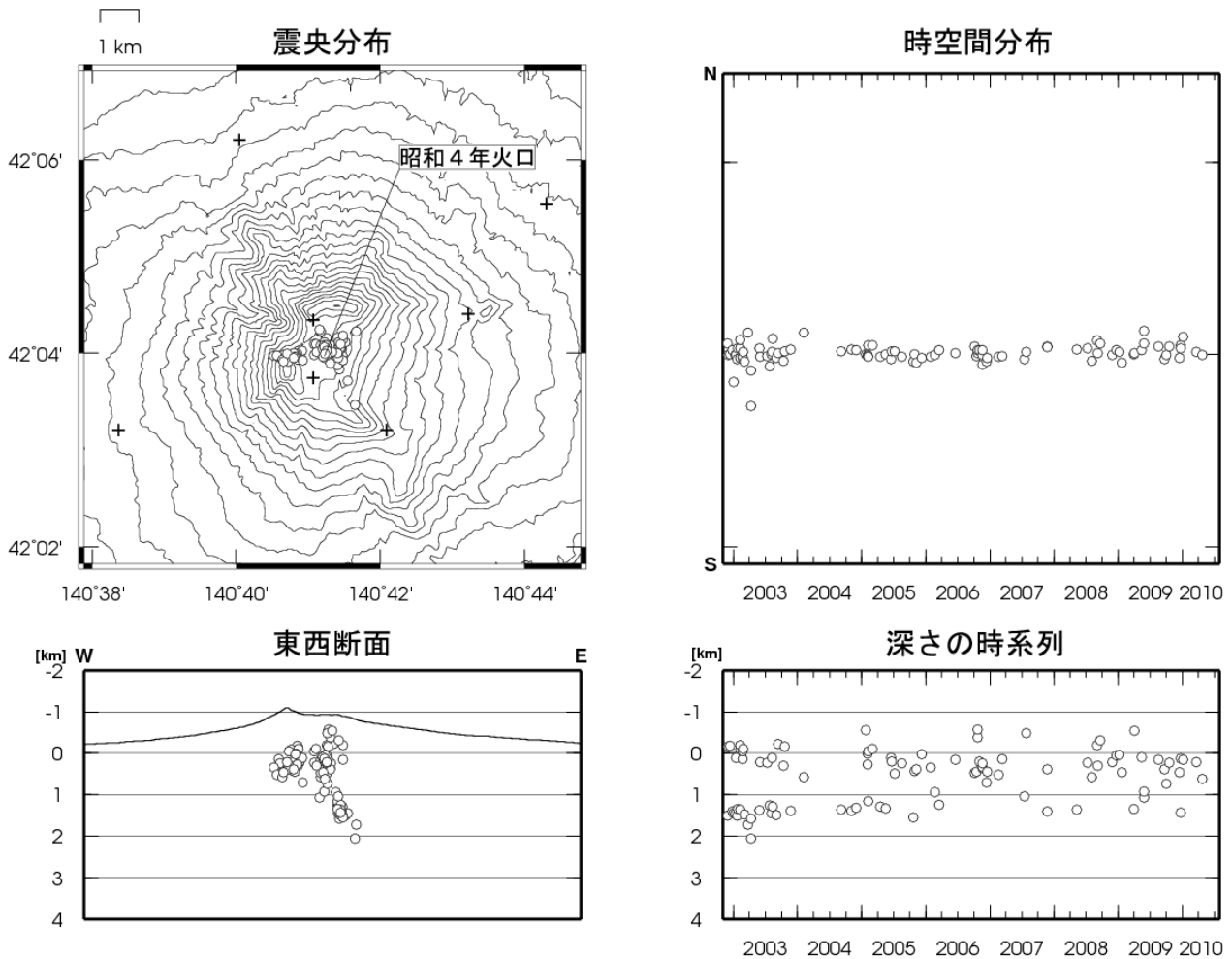


図 3 ※ 北海道駒ヶ岳 震源分布図（2002 年 11 月～2010 年 7 月、+は地震観測点）

- ・ これまでに求まった震源は山頂火口原直下の浅い所（山頂から深さ 0.5～3 km 付近）に分布しています。今期間に震源決定された地震はありませんでした。

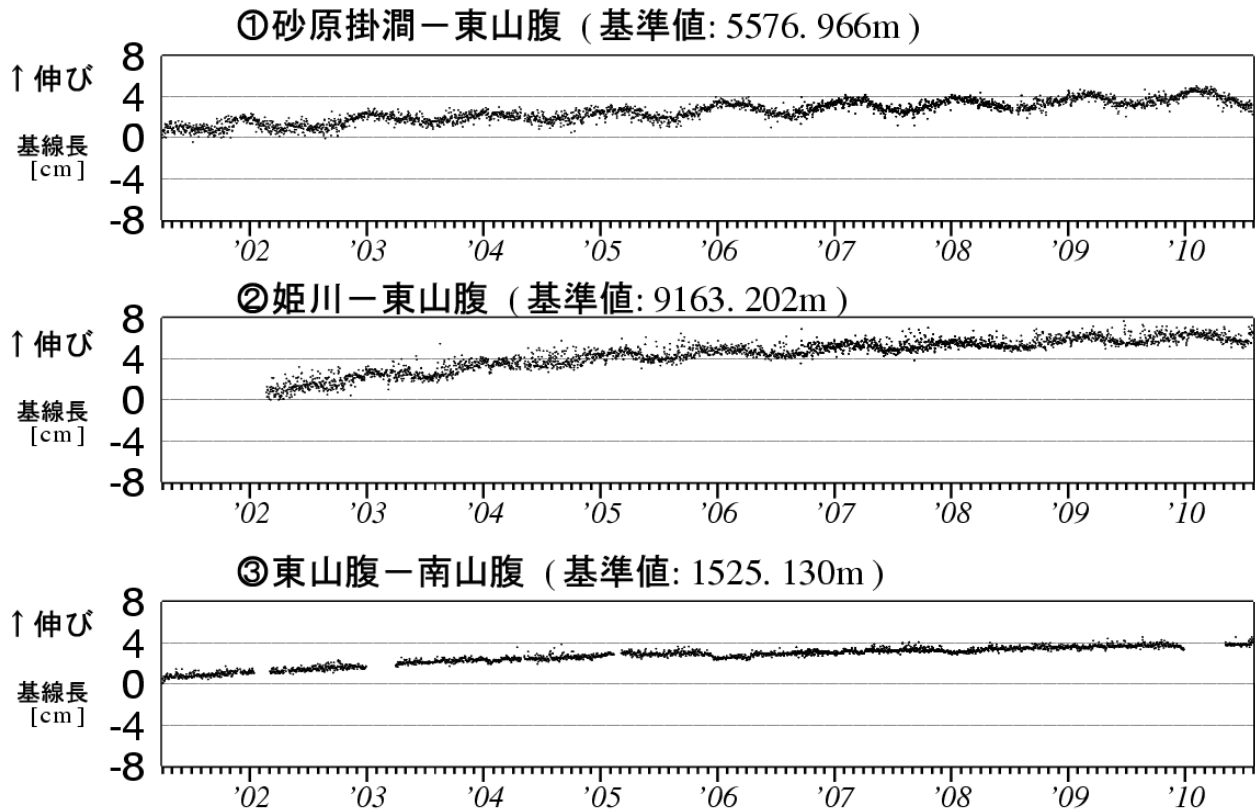


図 4 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 4 月～2010 年 7 月）

グラフの空白部分は欠測

図 4 の①～③は、図 5 の GPS 基線①～③に対応しています。

・ GPS 連続観測では、特段の変動は観測されませんでした。

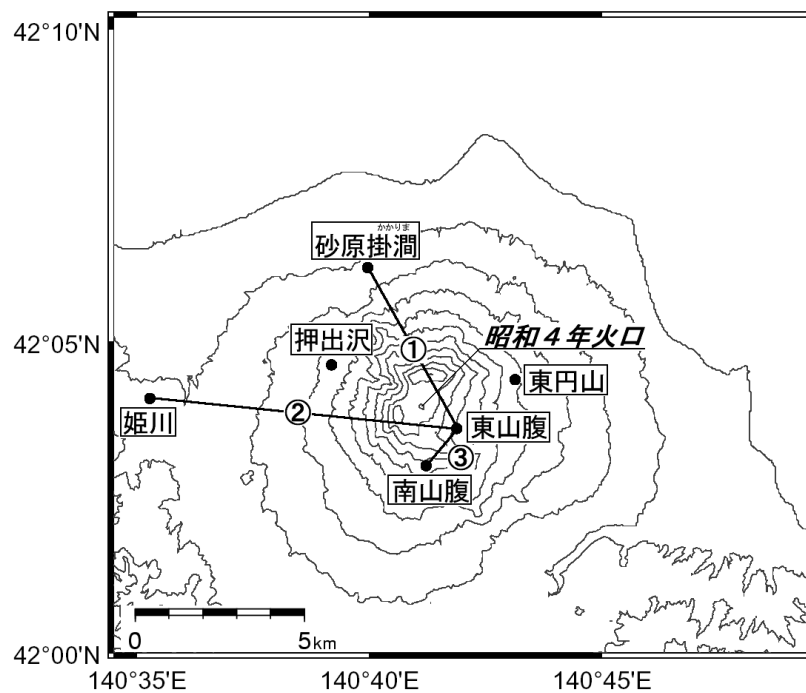


図 5 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測点配置図

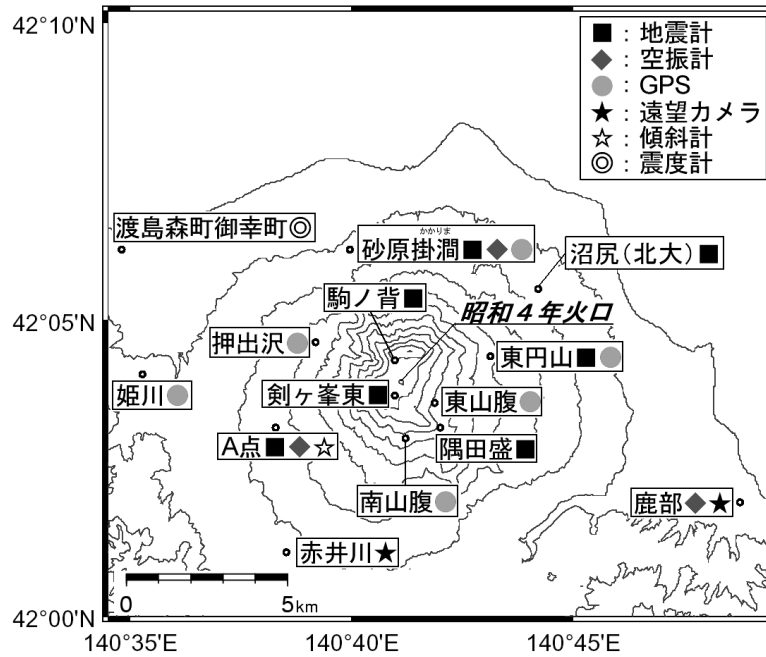


図 6 北海道駒ヶ岳 従来の観測点配置図

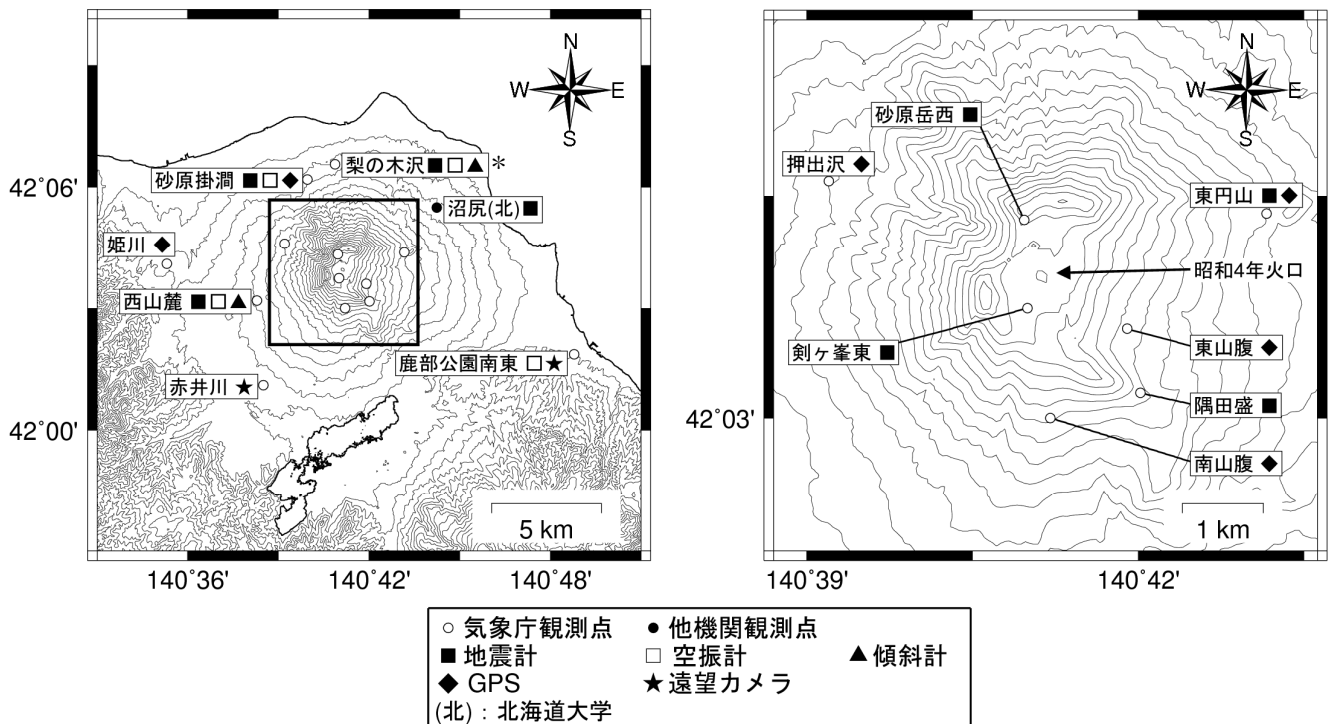


図 7 北海道駒ヶ岳 新しい観測点名称を使用した観測点配置図

気象庁では、2010 年 8 月 2 日 12 時より火山観測点の名称を変更しました。

この観測点配置図では、気象庁の観測点を新しい名称で記載するほか、この火山活動解説資料にデータを利用している、北海道大学の観測点についても引き続き記載します。

* 運用開始前の観測点も含んでいます。

観測点配置図の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。